

2006年6月、娘の野乃はカナダの高校を卒業して帰国しました。中学生時代1年間近くの不登校、高校時代のうつ病など苦しい時期をクリアしてようやく高校卒業の日を迎えました。卒業したことはめでたくもあり、喜ばしいことでしたので、親として娘を褒めてやりたい気持ちでいっぱいでした。ところが、娘は次の進路を決める段階で立ち止まったまま時間が過ぎていきました。すぐに「就職はしたくない」ということははっきりしていたのですが、かといって将来何をしたいとか、どういう方面に進みたいということは「わからない」ということでした。帰国してからは不自由な外国生活から開放されてのびやかに生活はしていたのですが、夏が終わろうとしても将来については何も語ろうとせず、行動を起こすこともありませんでした。夏の終わりのある日、私は「自分の思い」を娘にこう告げました。「高校を卒業したのだから、野乃は社会人だ。働きもせず、学校も行かずに時間を過ごすことは許されない。」と。娘を追い詰めることはわかっていましたが、「進学か就職か、決断して動き出さなくてはいけない時期だ。」と強く娘に回答を促しました。回答は「進学」でした。しかし、「どうしても大学にいきたい」という情熱は感じられないまま、またしばらく時間が過ぎていきました。私は娘の真意は「本当は大学に行きたいのだけれどやりたいことがわからない」あるいは「自信がない」のだ、と解釈していました。(娘の気持ちは娘にしかわかりませんが…)私は娘の大学進学については2つほど不安を持っていました。ひとつは基礎学力不足、もうひとつは日本の学校では不登校(中学)、中退(高校)という不完全燃焼で「達成感」を得られないまま終わっていたことです。こんなことを考えて、私は娘の大学進学の希望を確認した上で、推薦や帰国子女枠ではなく、一般受験で大学を目指すように促しました。「学力を身につけて一般受験を合格すれば、自信をもって学生生活を送れるのではないか」ということを娘に話しました。自分で目標を定めて受験勉強を積んで一般受験をパスするというプロセスを踏むことによって「達成感」を感じてもらいたい…その一心で私は一

一般受験を娘に促したのです。「達成感」が得られないままでは、なにごと中途半端におわってしまう、というのが私の心配でした。結局、娘は一般受験を決意し、秋になってようやく遅い受験生活がスタートしました。受験生活のはじまりは「塾探し」でした。塾についても受験校についても本人の主体性を尊重して本人の判断に任せたいと考えていたので塾も本人に決めさせ、後の受験校も本人に選択させることになりました。目標が定まった娘は少しずつエンジンがかかり、合格したいという意志を前面に出すようになりました。他人に頼ることなく自身が努力して結果を出さなくてはならないというプレッシャーは極めて大きかったはずですが、娘の生活に緊張感が生まれて表情も引き締まってきたように見えました。受験に関してはなるべく口を挟まない、と決めていたので親としては良い結果を祈るしかなかったのですが、この間、親子のコミュニケーションが少しずつ改善されてきたように感じました。年が明けて2007年2月、いくつかの大学を受験。幸い合格した大学の中に希望した理科系の大学があり、ほぼ望んだ結果を得ることができました。中学校時代はほとんどの科目の評価が「1」だったコンプレックスからようやく抜け出した瞬間だったと思います。自信がもてないばかりに避けて通ろうとしていたことを自分の努力で乗り越えた「達成感」を今度こそ感じてくれたと確信しました。「不完全燃焼」にケジメをつけ、もとの学年から一年遅れて大学生の仲間入りをしました。今は学校の近くにアパートを借りて大学生活を送っています。大学の講義の合間をぬってコンビニや家庭教師のアルバイトをしていますが、これも人間形成として大変良い経験だと思います。親として娘から学ぶことも多くありました。娘の能力を信じて、塾選びから大学選びまで本人の自主性に任せたことが今にして思えば良い結果を生んだ要因だと思います。また、「親の思い(思い込み?)」を受けとめて困難から逃げることなく頑張った娘に今は感謝と賞賛の気持ちを送りたいと思います。まさに親バカといわれるかもしれませんが、自慢の娘です。

☆ ☆ ☆
シンデレラになって…奥村真衣(中1)

初めての一人旅。しかも、未知の国、イングランド！私は中学一年。4月に入学してから学校で英語の授業が始まったばかり。ってことはつまり、英語歴4ヶ月ってことだ。知ってる英語なんてHelloとByeとHow do you do?とその他少々。ある日兄がミッチー先生と会うというので私は付録でついて行った。だが、その日に「サマースクールに行きます!!」と手を挙げていたのは兄ではなく私だった。「こちらのお靴をお忘れの方いらっしゃいませんか?」緊張した搭乗手続きを終えてリラックスして座っていた私は、キレイなキャビンアテンダントさんが機内を歩いて来るのを見て、吹き出してしまった。そのキャビンアテンダントさんが手にしていたのは私の汚い靴…。(最初に座った席が間違いと気づき、席をかわったのはいいけれど、靴を忘れてた!!)まるで私はシンデレラ!どんな夢物語がこれから始まるのだろう。かぼちゃの馬車?素敵な王子様?仲良しの仲間?いよいよ旅立ちという日、私は未だに一人でイギリスに行くということが信じられなかった。言葉も通じないのに友達なんてくれるかすごく心配だったけど、すぐにたくさんできて、我ながら感心した。先生たちもすごく明るいし、みんなが女装してリレーとかのおもしろいアクティビティや、ショッピングなどいろいろあり、盛り上がってすごく楽しかった。でも、何より嬉しかったのは、やっぱり、英語力があがったこと。「英語」なんて呼べないくらい、プサイクな英語だけど、かろうじて通じているみたいだったし、相手の英語も簡単なものならだいたいわ



かるようになったから。初めてのルームメイトは、イタリア人。隣を向けばドイツ人、スペイン人、フランス人、サウジアラビア人、カザフスタン人、ロシア人、中国人…ってここは、欧米化?(笑)…いえいえ国連か?まさに24時間英語版脳トレ状態!!!ロンドンでビッグベンを見たとき、思わず空をみあげてピーターパンを探した。ふと視線を落とすと電話BOXがあり、ひょっこりMr.ピーンがでてきそうだった。(笑)言葉が通じない分、空想の世界が広がった…空想なら私の十八番だ。でもそれが会話力につながるのかもしれないと思った。私はイギリスに来て本当に良かったと心から思う。帰国後、ドイツ人や中国人の友達と英文メールのやりとりをしている。ドイツでは日本のコミックマンガが大流行らしい。学校のこと、映画について、ショッピングについて…話題は絶えない。日本語と英語ではタイトルの表現が違ったり、ドイツ語の発音がわからないことが悩みの種ではあるけれど…。また世界のどこかで再会できそうな気がする。そんな私を見ていて、おばあちゃんはおスミつきをくれた。私は「ベラ」らしい。はやく「ベラベラ」になりたい。(おばあちゃんは英語を勉強したことがないのであやしいのだが…)私のシンデレラストーリーはまだ続く…

Dear Michi

Yu is doing great!

He is doing a lot more with Henry and Jeremy my two youngest sons 13 and 11 years old.

On Halloween he carved pumpkins with Henry and Jeremy and had fun!!

Yu has helped them with there computers,

really interacting with them a lot more, talking

and laughing. I remember last year Yu did not know what to say or how to play with

my younger sons. Now he has become a really nice older brother to them. We are

having a lot of with Yu .My son Jonathan that is 18 years old has become good

friends with Yu. I am really proud of Yu he has changed so much since the first day I

met him.There have been a couple of days this year he has miss school because he

was not feeling well.I am not going to have another student for a while that will be

easier for me. Take care, Nancy

Canada 便り



残暑お見舞い申し上げます。昨日はFAXを頂き、いつもながらお元気でご活躍のご様子何よりと存じます。8月13日「とくダネ」情報を拝見いたしました。最近まで孫(現 高3)がわが家に下宿し高校生活を送りました。国内とはいえ同じ様な体験をした次第です。共同生活の始まりに自分のことは自分でするをモットウに2年半前にスタートしました。部活で朝早く夕遅い生活、大変だったとはいえ、身の廻りの整理整頓炊事洗濯掃除と一切合切に覆いかぶさり、音を上げた次第です。分からないからやらない、やってくるからいい、言われないから、思いやりの精神はどこへやら、一時も携帯を離さない今どきの子供との生活に夏休みに入り部活が無くなりピリオドをつけたところでした。ホームステイの意味、望むこと、得ること、目的がハッキリ伝わり良かった。又何が必要なのか、若い世代に求めるものは何か。どう指導していったらよいか。具体的に話され良く理解でき、私も深く反省した次第です。この企画、とらえるところがドンビシャリ。次回は嫁、孫と共に家族全員で観たいと思います。番組のお知らせを頂きましたこと厚くお礼申し上げます。これからの先生のご活躍を期待致しております。まずはお礼かたがたご連絡を。 岡田武子

13日の放送を拝見しました。話題性のある番組として、多くの方々に観て頂けたと思います。あそこに出ていらしたおばあちゃんは、教養のある方だとお察し致しました。田舎では、中々少ない方もかもしれません。でも、とても素晴らしい番組でした。今後とも宜しくお願い申し上げます。乱筆ですがこの辺にて…。 かしこ 佐藤洋子

はじめまして。神戸市長田区、古本多賀子さんの紹介でフジテレビ「とくダネ!」の孫と行く夏期留学拝見させて頂きました。今まで、留学=祖父母と という考えはまったく無かったので少々驚きましたが、TVを拝見し、一人でなく両親とでもない何か違ったものが得られる旅になるような気がしました。日常生活の「あたりまえ」が海外に行くくと「あたりまえでない」ということ等、生活で学べることは、多いなあと感じました。しかし、短時間のTV番組の一部分ということもあり、少年の学校での様子があまり見られず、「子どもが行くとどんなことを学んでくれるのだろうか?」という疑問が残ってしまいました。やはり2週間では、環境に馴染むので精一杯になってしまうんでしょうか?留学=語学勉強という考え方にどうしてもなってしまう…また、機会があればよろしく願います。 谷本佳

お早うございます。今日のフジテレビ 拝見いたしました。日本の子供たちがいかに、あまやかされて育てられているか、おそらく、平均的な日本の家庭の姿ではないかと思えます。しかし、海外文化に接して初めて日本文化の遅れにこの留学生も実体験として教わったことでしょう。帰国する頃には、一回り成長して帰ってくるのではないのでしょうか。親御さんにとっても、日本にとっても、非常に良いこと。改めて、三津子さんのお仕事に、乾杯です。もっともっと多種多様な人達の面倒をみていらっしゃることでしようから、本当に敬服いたします。 難波伊都子

Congratulations!!

* 菅野 唯 英検IELTS 5 を獲得 * 金丸真治 英検IELTS 6 を獲得

* 酒井 亮 英検IELTS 5 を獲得 * 内田苑子 英検IELTS 6.5 を獲得

* 江原 悠 カナダ・ビクトリア市立スペクトラム高校・成績優秀賞を受賞

* 水木麻友美 イギリス・St.Bede's寄宿高校入学

* 安富哲明 結婚